

平成 27 年度 相愛大学公開講座

「人文の時」PartⅣ

総合研究センターでは、本学各部署における学術的活動に対し協力支援を行っている。本年度も人文学部の主催する公開講座を後援した。以下、開催場所、各講座の日程、講師、テーマ、要旨などを掲載し報告する。

場所：相愛大学 本町学舎 F 604 教室

なお各講座とも開催時間は午後 2 時から午後 4 時まで。

5 月 30 日（土）教授 益田圭

「ひとを見る目は確かです！？ 思い込みの心理学」

「心」は「もの」と違って直接観察できない。そのため、心理学では人間の態度や行動を理解するために、心の働きを研究している。こうした心の働きの中で、日常生活に大きく影響するもののひとつにステレオタイプ (stereotype) がある。ステレオタイプとは特定のグループと特定の性質を結びつけることであり、「カテゴリーと結びついた誇張された所信」(Allport, 1961) である。ステレオタイプによる認知とは、従来のパターンに合う認知のことであり、ステレオタイプにより、逐次的な情報処理が不要となり、処理する情報量が節約できるのである。しかし、ステレオタイプによって他者に対する印象や判断に歪みが生じたり、思い込みによる発想や行動の制限が加えられることがある。このため、自分にとっての「当たり前」「常識」「普通」というべきステレオタイプを見直すことで、自分を成長させ、より自由で粹に

縛られない発想や行動が可能になるのである。

6 月 27 日（土）准教授 高木学

「現代アニメの楽しみ方～アニメにおける現実との距離感～」

本講座では、アニメ作品および関連して生じている数々の社会現象を紹介しながら、「アニメ」と「現実社会」が双方向的に関連している状況を解説した。前半では「アニメから現実へ」として、2次元のアニメ作品が世間や人々に多大な影響を及ぼしている様子を取り上げ、特に観光・音楽・演劇の各業界でアニメの影響が非常に大きくなっていることを解説した。後半では「現実からアニメへ」として、現実の複雑な社会状況がアニメ作品の中に織り込まれている様子を切り取ってみた。特に「日常系アニメ」「サヴァイブ系アニメ」と呼ばれるアニメ作品群が、①統一的な価値観の消失と社会状況の多様化・複雑化、②日本の若者の自己肯定感の弱さ、③ストーリーテリングの質の変容、などの現実問題と大いに関連していることを解明した。

7 月 11 日（土）准教授 石川玲子

「イングランド探訪-V. ウルフゆかりのセント・アイヴスとルイス」

イングランドの南西コーンウォール州の海辺の町セント・アイヴス (St. Ives) と、ロンドンの南方に位置するサセックス州のルイス (Lewes) という町を、イギリスが生んだ作家ヴァージニア・ウルフ (1882-1941) との関わりを軸に紹介した。イギリスという国の地理的な概略、イギリスと「イングランド」の関係、さらにヴァージニア・ウルフという作家について述べた後、ウルフにとってセント・アイヴスの別荘 Talland House で過ごした幼年時代の記

憶が重要なものであり、それが代表作『灯台へ』（1927）の背景となっていることを、ウルフの日記や小説を引きつつ、セント・アイヴスの写真や地図を用いて説明した。次にルイス城と周囲のサウスダウズ（土地特有の丘陵地帯）について説明した後、郊外のロドメルにあるウルフの田舎家 Monk's House を、屋敷や庭の写真、ウルフの日記と小説の引用によって紹介した。

9月26日（土） 准教授 小野真

「宗教と音楽～雅楽のコスモロジー」

「雅楽」の概念は古代中国で形成され、統治者が民を導く正統な音楽とされた。宗教は、情感を揺さぶり魂に影響を与える音楽に対して時にして警戒的であるが、「雅楽」は為政者の統治をささえる宗教観を表現するための媒体として積極的に用いられ、この思想は日本にも移入された。日本では平安時代半ばに現在に伝わる「雅楽」の様式が成立したが、雅楽の背景となるコスモロジーの原型はそれに先立つ752年の東大寺大仏開眼供養会において示されている。多数の僧侶の声明や、諸々の外来音楽によって大仏開眼が祝われたが、同時に日本古来の神道的な歌舞によっても言祝がれ、神道が仏教に従属する神仏習合的なコスモロジーが儀礼において示唆されている。この観念は明治政府の神仏分離により大きく変化したが、神仏習合のコスモロジーは雅楽に滲透しており、それは今日も民間レベルでは明確に受け継がれている。

10月31日（土） 教授 鈴木徳男

「和歌（うた）の力」

和歌を詠むことによって、挫折や行き詰まりを打開できたという話がある。そうした和歌の力は、歌学書・説話集などの中で「歌徳」と呼

ばれ、様々な物語が伝えられている。その展開や背景をたどり、歌徳の意義を考察する。本講座では、その一例として和泉国にある蟻通明神の説話を取りあげ、明神が感応した紀貫之の歌について具体的に述べた。『枕草子』に蟻通明神の縁起がみえるが、歌によって明神の祟りを許されたという紀貫之の歌をめぐる話は、その縁起の内容をふまえて詠まれたと思われる。当該説話の載る『俊頼髓脳』は、鈴木が研究対象として長年取り組んできた作品（歌学書）であり、その紹介とあわせて、最新の成果をふまえた検討を試みた。

2月6日（土） 教授 藤谷忠昭

「アジアの中の沖縄」

古代、グスク時代、古琉球以来の沖縄の歴史を辿ることで、アジアでの沖縄の位置づけを行い、その上で米軍基地の現状と課題を整理した。続いて、その地理的位置、歴史、現状を踏まえ、基地返還後のまちづくりのために、地元、商工業者、役所を仲介し活動する2つのNPOの役割について検討した。普天間門前まちづくり期成会は、日常的な活動の傍ら、複数の自治会とともに歴史絵巻行列を主催し、多くの観光客を得ながら普天間飛行場返還後の商店街の活性化を目指す。ナハ・シー・パラダイスは、那覇軍港に隣接する同じく複数の自治会とともに、海外からのクルーズ船に対しエイサーなど送迎イベントを行う他、年少者の教育指導などに努め、観光を中心としたウォーターフロントの活性化を企てる。ともに琉球時代からの歴史を踏まえつつ、基地依存脱却を目指し、政策提言を含めた活動を通じて、地域、産業界、行政をつなぐ市民セクターの意義を明らかにしている。

平成 27 年度相愛大学公開講座

人文の時

Part IV

公開講座共通テーマは「人文の時 partⅣ」。

それぞれの専門領域の講師が、蘊蓄を傾け、
汲めども尽きない人文学の華を咲かせます。

時は来ぬ。

皆さんを豊かな学びの世界へとご案内いたします。

5/30 (土)

ひとを見る目は確かです！？
思い込みの心理学

益田 圭 教授

6/27 (土)

現代アニメの楽しみ方
～アニメにおける現実との距離感～

高木 学 准教授

7/11 (土)

イングランド探訪
～V.カワゆかりの地、セント・アイヴズとリス～

石川 玲子 准教授

9/26 (土)

宗教と音楽
～雅楽のコスモロジー～

小野 真 准教授

10/31 (土)

和歌(うた)の力



鈴木 徳男 教授

2/6 (土)

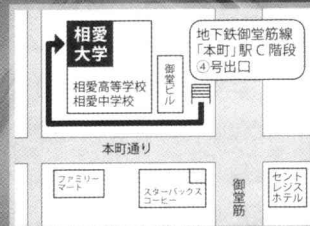
アジアの中の沖縄



藤谷 忠昭 教授

場所：相愛大学 本町学舎 F604 教室
地下鉄御堂筋線「本町」駅下車
C 階段④出口より徒歩 5 分

時間：14 時～ 16 時 (受付：13 時 30 分)



※入場は無料です(申込不要)。

※当日、満員になり次第締め切りとさせていただきます。5 回以上ご出席の方には最終日に修了証をお渡しいたします。

※講座の妨げになると判断する行為を行った場合は、ご退席いただくことがありますので、予めご了承ください。

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ先 相愛大学人文学科合同研究室(担当：木曾)

TEL: 06-6612-6253 E-mail: jinbungakubu@soai.ac.jp

後援 相愛大学総合研究センター